

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小・中学校の児童生徒を対象に実施しています。

(2) 実施時期 2023年6月～7月

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生 (単位:人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,762	3,824	3,806	3,812	3,860	3,866	22,930	97.3%

中学生 (単位:人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,471	3,578	3,604	10,653	91.7%

※ 回答率は令和5年調査実施日現在の学校から報告のあった児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※ 欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名または記名で回答し、記入後その場で回収
Google フォームを活用した電子版での調査も実施

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

原則として、2020年より設問内容を同内容としています。2023年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、コロナに関わる自由記述欄を変更しています。

また、嫌なことの選択肢として、「手紙」「パソコン、スマートフォン等」を分けています。

設問1～5 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問6・7 「相談状況の把握」

設問8・9 「自己の行動の見直し」

設問10・11 「周囲の児童生徒の意識」

設問12 「その他の不安や心配、困っていること」 (自由記述)

2 調査結果の分析の観点

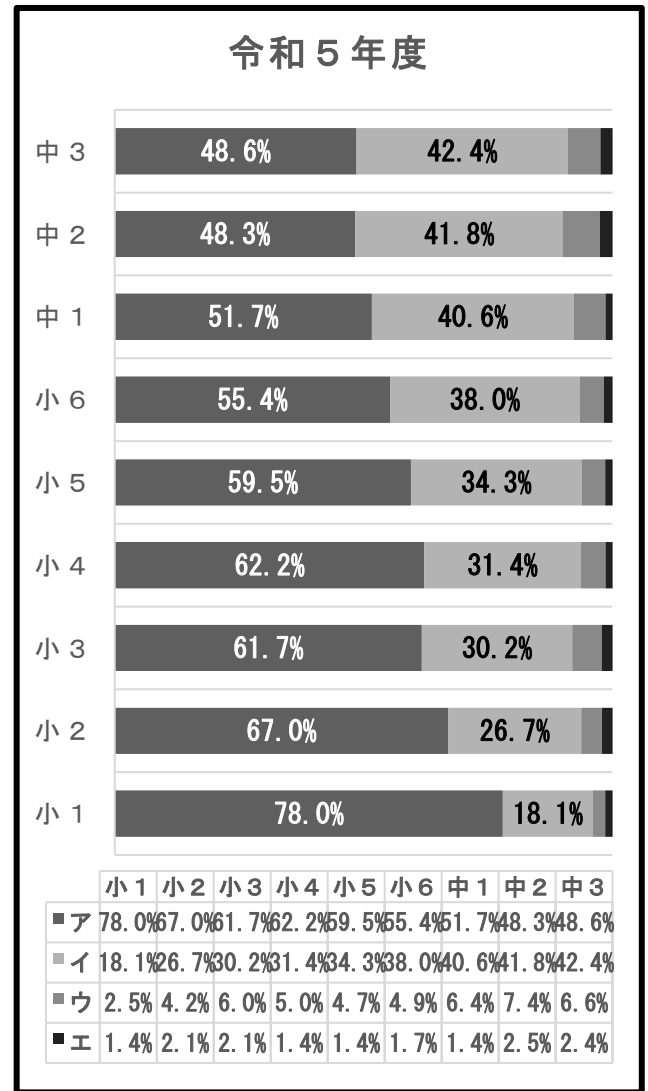
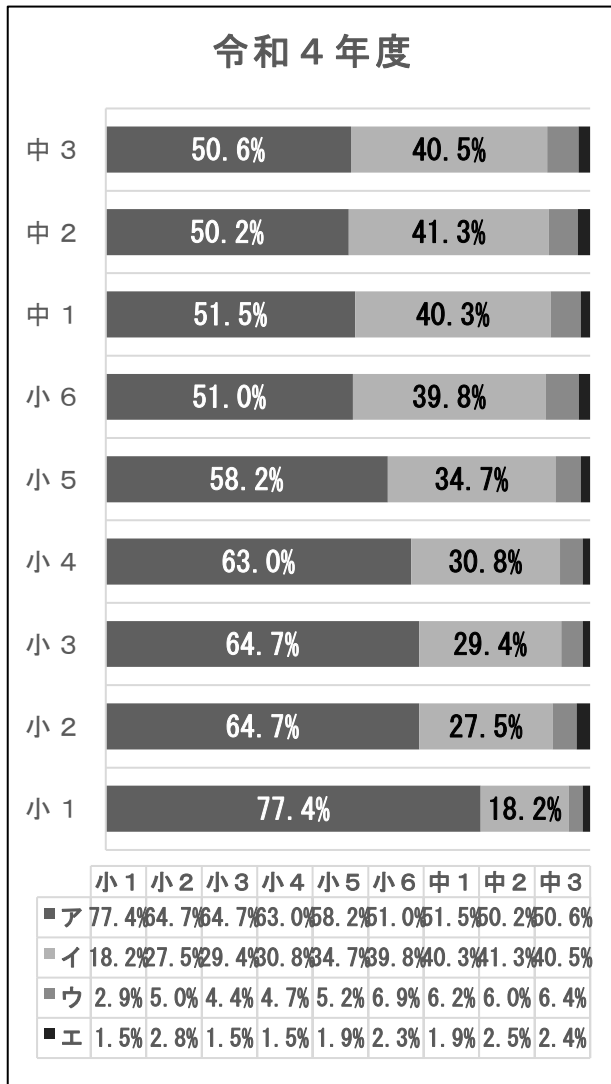
(1) 児童生徒の学年別での実態把握と、昨年度の状況との比較

(2) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合

(3) パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合

3 調査結果の分析

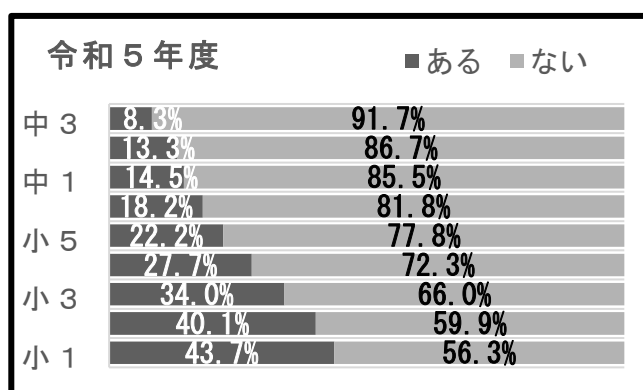
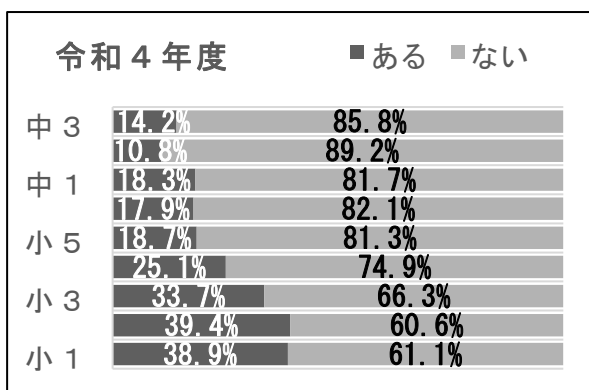
(1) 学校は楽しいですか。



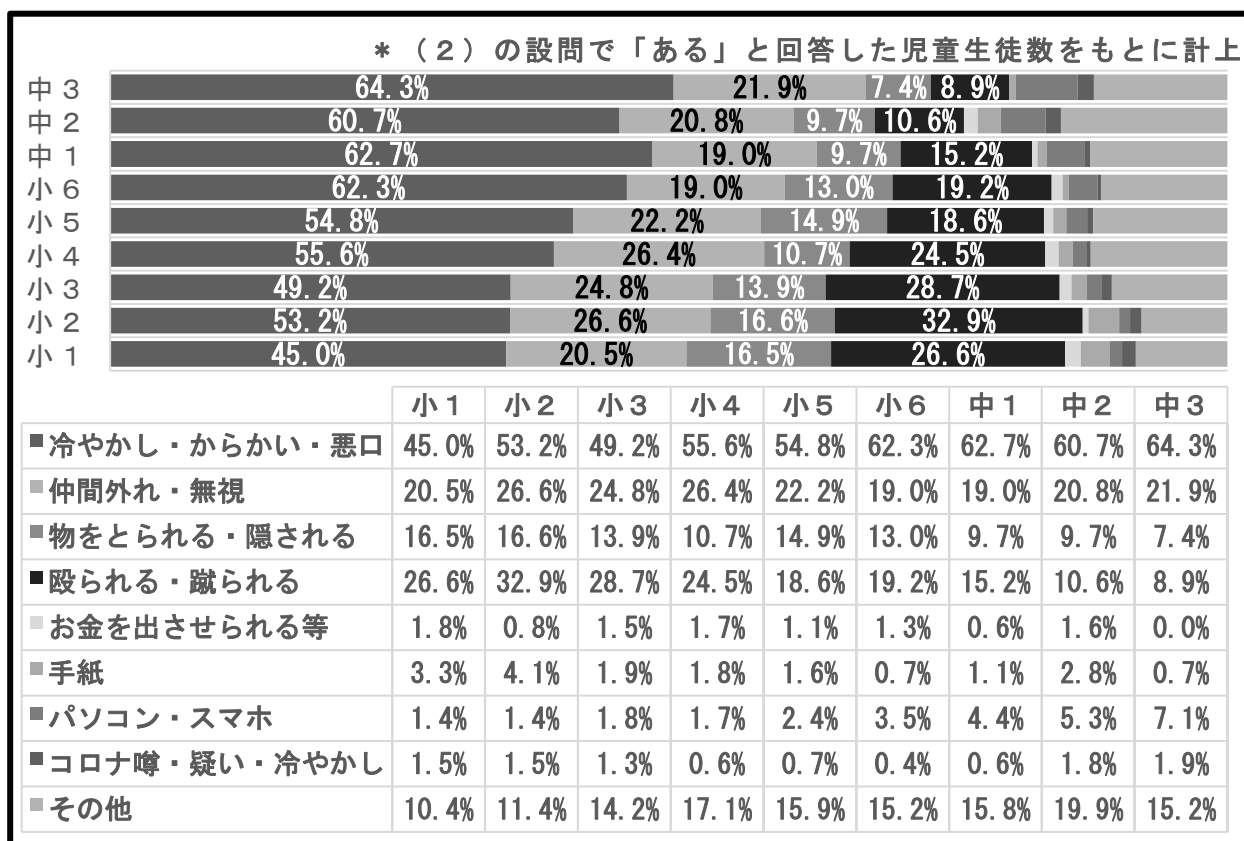
ア 楽しい イ まあまあ楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない

令和5年度において、学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒は、90%以上となっている。「楽しくない」の数値が高い学年は中2・3、小2・3となっている。令和4年度の数値と比べると、中2・3は変わらない。また、小・中学校いずれにおいても、「楽しい」と回答した児童生徒の割合は、1年生が最も高くなっている。

(2) 学校生活の中で、周りの人からされたことで、嫌な気持ちになったことがありますか。



(3) (2)で「ある」と答えた人で、周りの人からされた嫌なことで、あてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可

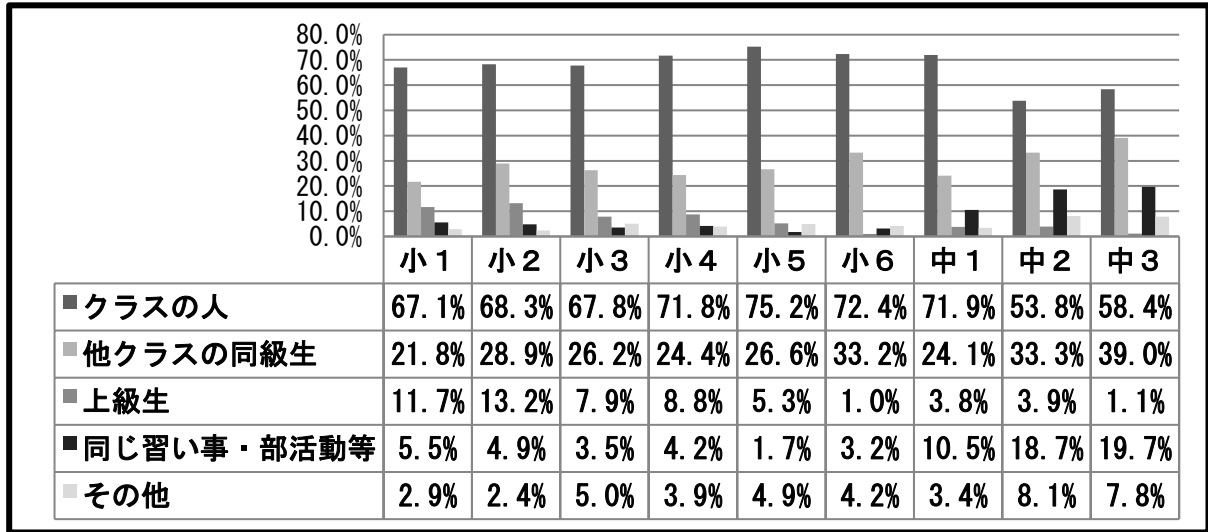


「嫌な気持ちになったことがありますか」という設問において、「ある」と回答した児童生徒の割合は、昨年度同様に、学年が上がるにつれて低くなっている。

その種類では、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多くなっている。次いで、中学校では、「仲間外れ、無視」、小学校では、「殴られる、蹴られる」となっている。「手紙」「パソコン、スマホ等」の種類においては、小学校低学年の方が「手紙」の割合が高く、小学校高学年以降は、「パソコン、スマホ等」の割合が高くなる傾向にある。

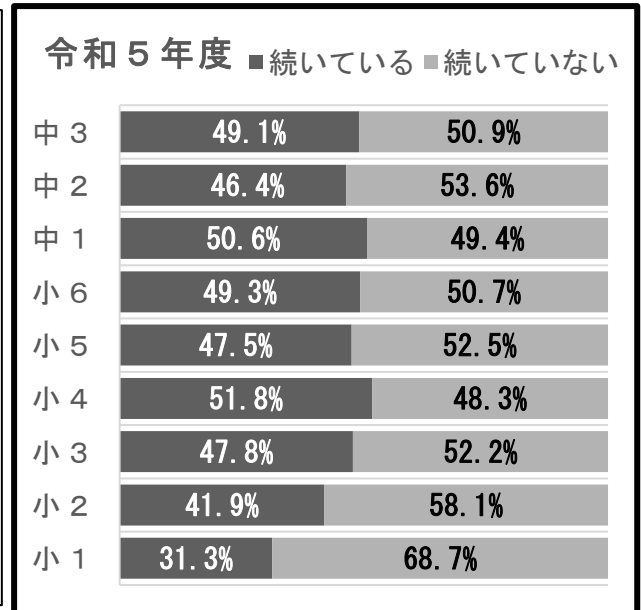
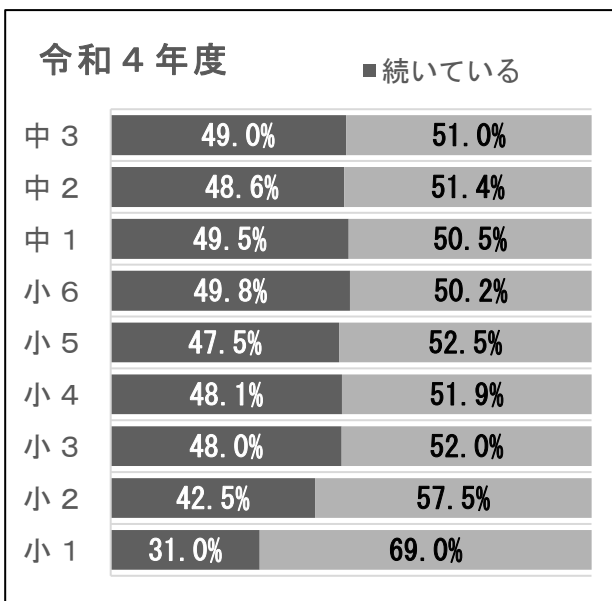
その他には、「嫌なあだ名で呼ばれた」「授業中にうるさかった」等があげられた。

(4) 嫌なことを誰からされましたか。※複数回答可



(2) の設問で、「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒のうち、「クラスの人」にされた割合が最も多く、続いて「他クラスの同級生」となっている。また、特徴的な傾向として小1・小2では、「上級生」と回答した割合が高く、中学校では、「同じ習い事・同じ部活動の人」と回答した生徒の割合が高くなっている。

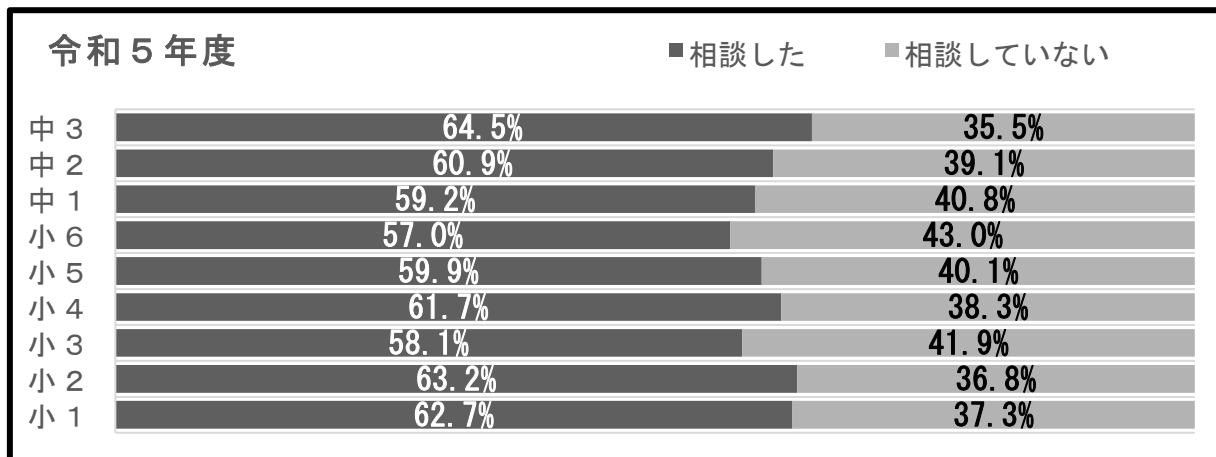
(5) 嫌なことは今も続いていますか。



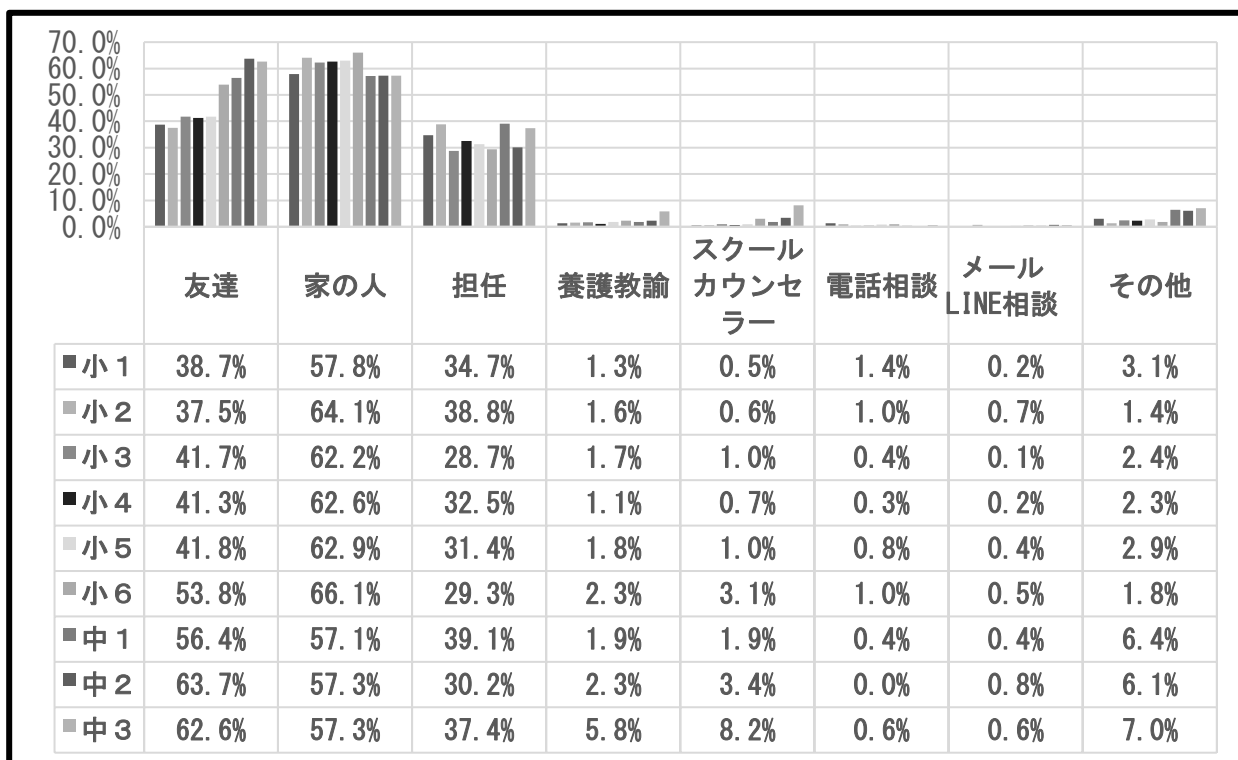
「続いている」と回答した割合が最も高かったのは小4で、「続いていない」と回答した割合が最も高かったのは小1であった。

特に小3以上は、半数近くの児童生徒が「続いている」と回答している。

(6) 嫌なことを誰かに相談したりしましたか。



(7) (6)で、「相談した」と答えた人に聞きます。相談した相手にあてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可



「相談をしていない」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに、4割程度となっている。

また、相談した相手として、小学校では「家の人」が最も多く、中学校では、「友達」の割合が多く、中2・中3では、60%を超えている。

なお、「その他」には、学童の先生、他のクラスの先生、児童支援担当の先生、部活動の顧問、部活の先輩、学年の先生等が含まれている。

(8) あなたは、周りの人が嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことがありますか。

令和4年度	■ある	■ない
中3	7.0%	93.0%
中2	8.3%	91.7%
中1	9.3%	90.7%
小6	15.3%	84.7%
小5	12.1%	87.9%
小4	11.9%	88.1%
小3	17.8%	82.2%
小2	20.1%	79.9%
小1	21.1%	78.9%

令和5年度	■ある	■ない
中3	6.8%	93.2%
中2	9.1%	90.9%
中1	11.3%	88.7%
小6	14.0%	86.0%
小5	13.2%	86.8%
小4	16.5%	83.5%
小3	17.0%	83.0%
小2	21.0%	79.0%
小1	22.9%	77.1%

(9) (8)で、「ある」と答えた人に聞きます。あなたが、周りの人に言ったり、したりしたことにあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合は、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可

* (8)の設問で「ある」と回答した児童生徒数をもとに計上

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
■冷やかし・からかい・悪口	50.1%	62.0%	59.8%	64.6%	66.1%	72.4%	75.6%	76.0%	81.0%
■仲間外れ・無視	13.5%	16.0%	20.5%	16.9%	9.0%	10.7%	14.2%	9.4%	8.6%
■物をとる・隠す	7.9%	8.7%	10.0%	11.3%	10.4%	8.3%	9.7%	5.9%	6.7%
■殴る・蹴る	21.9%	25.4%	24.5%	18.3%	19.0%	15.7%	12.8%	10.1%	8.6%
■お金をさせせる等	1.0%	0.6%	0.7%	0.5%	0.2%	0.4%	1.4%	0.7%	0.5%
■手紙	2.3%	1.9%	0.8%	0.8%	0.8%	1.0%	0.9%	1.0%	1.4%
■パソコン・スマホ	1.6%	0.5%	1.2%	1.2%	0.8%	2.9%	3.1%	2.1%	1.9%
■コロナ噂・疑い・冷やかし	1.5%	0.1%	0.2%	0.5%	0.2%	1.7%	0.6%	1.0%	0.0%
■その他	10.0%	8.0%	6.0%	9.8%	8.8%	10.1%	9.7%	10.1%	5.2%

嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことが「ある」とする児童生徒の割合は、概ね学年が上がるにつれて低くなっている。昨年度と比較すると、「周りの人に言ったり、したりした」の割合は概ね微増である。具体的な行為としては、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多く、次に小学校では「殴る、蹴る」、中学校では「仲間外れ・無視」「殴る、蹴る」となっている。

(10) 嫌なことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか。

令和4年度

■ある ■ない

中3	20.8%	79.2%
中2	17.3%	82.7%
中1	17.0%	83.0%
小6	19.8%	80.2%
小5	18.6%	81.4%
小4	22.0%	78.0%
小3	29.1%	70.9%
小2	33.4%	66.6%
小1	31.8%	68.2%

令和5年度

■ある ■ない

中3	11.7%	88.3%
中2	17.4%	82.6%
中1	16.9%	83.1%
小6	19.5%	80.5%
小5	20.7%	79.3%
小4	25.6%	74.4%
小3	29.9%	70.1%
小2	34.7%	65.3%
小1	30.9%	69.1%

(11) (10)で「ある」と答えた人に聞きます。見たり聞いたりしたことについてあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合には、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可

* (10) の設問で「ある」と回答した児童生徒数をもとに計上

中3	85.3%	33.9%	16.5%	9.6%					
中2	82.0%	21.6%	17.0%	18.4%					
中1	78.0%	27.1%	16.2%	19.1%					
小6	69.4%	32.4%	18.7%	30.3%					
小5	68.0%	27.9%	15.5%	28.2%					
小4	62.0%	28.9%	16.8%	31.4%					
小3	53.7%	31.5%	21.0%	34.2%					
小2	54.4%	23.9%	21.1%	38.9%					
小1	46.7%	16.8%	15.8%	27.9%					

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
■冷やかし・からかい・悪口	46.7%	54.4%	53.7%	62.0%	68.0%	69.4%	78.0%	82.0%	85.3%
■仲間外れ・無視	16.8%	23.9%	31.5%	28.9%	27.9%	32.4%	27.1%	21.6%	33.9%
■物をとられる・隠される	15.8%	21.1%	21.0%	16.8%	15.5%	18.7%	16.2%	17.0%	16.5%
■殴られる・蹴られる	27.9%	38.9%	34.2%	31.4%	28.2%	30.3%	19.1%	18.4%	9.6%
■お金をさせられる等	1.5%	0.8%	2.6%	2.5%	1.1%	5.1%	2.0%	1.9%	2.7%
■手紙	4.7%	7.8%	4.3%	4.5%	4.1%	2.0%	4.4%	1.6%	2.4%
■パソコン・スマホ	1.8%	1.1%	1.7%	1.7%	2.8%	5.1%	5.3%	5.5%	5.3%
■コロナ噂・疑い・冷やかし	1.6%	1.1%	1.3%	1.6%	0.5%	1.0%	0.4%	0.7%	1.3%
■その他	7.9%	5.0%	7.3%	6.2%	6.0%	6.4%	7.5%	4.8%	3.5%

学年が上がるにつれ、「見たり聞いたりした」の割合は概ね減少している。どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が多く、次に小学校では「殴られる、蹴られる」が多く、中学校では「仲間外れ、無視」が多い。小学校6年生から「パソコン・スマホ等」での嫌がらせが「手紙」より多くなっている。

(12) この他に、困っていることなど、先生に伝えたいことがあれば自由に書いてください。(授業のこと、習い事、家でのこと、家族のこと、新型コロナウイルス感染症など) (自由記述)

※一部抜粋

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・父と母がけんかしている。 ・家庭内で、暴言や暴力がある。 ・失敗すると笑う子がいて困っている。 ・話を聞いていない人が怒られているのを見たり聞いたりしていることが辛い。 ・授業が難しい／簡単過ぎる。 ・授業中うるさい。 ・自分の思っていることが言えない。 ・自分が友だちから嫌われていないか心配。 ・相談したいけど、できない。 ・大声で話している人は、マスクをつけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の人を除いたグループ LINE がある。 ・SNSに愚痴を書き込んでいる人がいる。 ・理科室や家庭科室にもエアコンを設置してほしい。 ・熱中症の取り組みをもっとした方がよい。 ・授業が難しい。 ・授業中うるさい人がいて集中できない。先生から注意をしてほしい。 ・勉強が苦手な高校や将来が不安。 ・思春期でしかたないけれど、小学校の時のように男女で仲良くしたい。 ・家のことや友だち関係など、相談できる機会がほしい。

小・中学校ともに、授業内容が難しい、簡単である等の記述が一定数みられた。授業中騒がしく、集中できないという声もあった。また、家庭内での父・母・きょうだいからの暴言や暴力等に悩んでいる児童生徒もみられた。中には、相談をしたいけれどもできない、相談できる機会がほしい等、悩みや困り事を一人で抱えている児童生徒がいることがうかがえた。

4 調査結果の考察

- (1) 設問2の「嫌な気持ちになったことがありますか」では、「ある」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて減っています。設問8の「人が嫌な気持ちになることを言ったりしたりしましたか」でも、同様な傾向がみられました。しかしながら、設問2と設問8を比べると、小6から中3では、その差異は小さいものの、小1から小5では、大きな差異となっています。自分は嫌なことを言ったつもりがなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方の差が表れました。特に、小学校低学年においては顕著です。感じ方がそれぞれ違うということに気付けるよう、小学校低学年のうちから人権意識を高める必要があります。
- (2) 設問2の「嫌な気持ちになった」という内容において、「パソコン、スマートフォン等で嫌なことをされた(SNS、ゲーム、学校のパソコン等)」を選択した割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向にあります。小学校低学年

でも、少ないものの嫌な思いをしている児童が見られました。子ども達の日常にスマートフォンの使用、SNS等でのやりとりが当たり前になっていることを踏まえ、周りから見えづらく、相談しにくいものとして、今後更に増えることが懸念されます。これまで以上に、情報モラル教育や心の教育を充実させていく必要があります。

※昨年度まで「手紙、パソコン、スマートフォン等」だった選択肢を、今年度から「手紙」「パソコン、スマートフォン等」に分けました。

- (3) 設問4の「誰からされましたか」では、どの学年においても、「クラスの人」にされたと回答した割合が高いです。クラスにおける人間関係づくりやいじめ防止の取り組みを系統立てて、学校において組織的に未然防止に努める必要があります。また、中学校では、「同じ習い事・同じ部活動の人」を回答した生徒が他の学年より高くなっています。これは、学校内において活動の場が広がるとともに、学校外の塾等の場において嫌な気持ちになっていることが考えられます。いじめ防止対策は、学校内だけでなく、家庭や地域、関係機関等とも連携して取り組む必要があります。
- (4) 設問5の「今も続いていますか」において、小学校3年生以上では、「続いている」と半数近くの児童生徒が回答しています。各学校では、「学校いじめ防止基本方針」に則り、対応するとともに、継続的な支援を行っています。設問6において、「相談していない」という児童生徒が4割程度いることから、定期的なアンケートの実施や面談等を行い、実態の把握や指導体制の見直し等に努める必要があります。また、「SOSの出し方教育」に一層取り組むとともに、児童生徒が相談できる窓口について、子どもたちが利用しやすい形で周知していく必要があります。
- (5) 設問12の「学校内外のことで、困っていることなど」において、昨年に引き続き、授業に関する不満や自身の学習に対する不安、身内からの暴言・暴力等、家庭内のトラブルについての記述が一定数ありました。小学校では、友だちとの関わり方に不安があったり、新型コロナウイルス感染症に関わるマスクの扱い等に悩んだりしている児童がみられました。中学校では、SNSに関わる心配や部活動に対する不安や不満等がみられました。また、相談をしたいけれどできない、相談できる機会がほしい等、悩みや困り事を一人で抱えている児童生徒がいることもうかがえました。児童生徒が、問題を一人で抱え込むことのないよう、相談しやすい環境づくりや相談先の周知に努め、安全安心な学校生活を送れるようにする必要があります。

5 今後の取組

子どもの心を育てることは、豊かな人間関係を築くうえで欠かせません。子どもたちが、互いの存在を認め合いながら、ともに支えあうためにも、一人ひとりがかげがいのない存在として尊重できる心を育むことが、いじめの未然防止につながります。

いじめの問題については、「藤沢市いじめ防止対策基本方針」及び各学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校と教育委員会、関係機関が連携し、更なるいじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでまいります。また、学校や教育委員会の取組が、保護者や地域の方々に見え、連携できるような体制づくりを更に進めてまいります。

- (1) 学校は、児童支援担当、生徒指導担当、校内支援担当を中心に、「学校いじめ防止基本方針」に則って、学校内において情報を共有し、組織として支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。
- (2) 学校は、「特別の教科 道徳」をはじめ、教育活動全体を通して、「自分を大切にするとともに、他の人を大切にする」という思いやりや寛容な心、他者の権利を認め尊重するという人権意識と、自分の行動を律する規範意識を育むことができるよう、組織的かつ計画的な指導に努めます。
- (3) 学校は、児童生徒が安心でき、楽しく充実感を得られる場になることが肝要です。そのためには、児童生徒が安心できる心の居場所となるよう教職員全体で「居場所づくり」を進めるとともに、児童生徒が主体的・協働的な活動を通して互いを認め合い、絆を紡ぎ合えるような視点を大切に魅力ある学校・学級づくりに努めます。
- (4) 教育委員会では、一般財団法人 LINE みらい財団と連携し、「GIGA ワークブックふじさわ」を作成、各学校に配付しました。学校と教育委員会が連携し、「GIGA ワークブックふじさわ」を通して、情報モラル教育の一層の推進を図ります。また、保護者向けに作成したケイタイ・スマホトラブルについてや家庭でのルールについて等のページ活用についても啓発に努めます。
- (5) 教育委員会では、全児童生徒に相談機関紹介カードを配付し、相談先の周知に努めるとともに、悩みを相談できない児童生徒が、対面での相談につながるように、グーグルアカウントを活用した「藤沢市子ども相談フォーム」を実施し、相談体制の充実を図っていきます。
- (6) 学校では、家庭内の悩み等、周囲に相談できず困っている児童生徒を早期に発見し、適切に対応していくために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等心理や福祉の専門職と連携して支援に努めます。
- (7) 教育委員会では、教職員のいじめに対する意識や対応力を高めるために、スクールロイヤーや、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させます。